

岡崎助一著「生涯スポーツ社会の実現を目指して」社会教育 2009年12月号教育連合会刊を読む

## 生涯スポーツ社会の実現を目指して

### 1. 生涯スポーツ時代の到来

(1)その後、わが国においては、都市化によるコミュニティの崩壊、運動不足や栄養過多による健康問題などへの対応策として、また、人間としての豊かで活力のある生活、いわゆる、生きがいの視点が重要視されてきました。社会教育の分野において生涯学習の概念が提示され始めた昭和50年代中・後半にスポーツの分野においても生涯スポーツの振興が提唱され始めました。これは、スポーツが、生きがい、学習、健康、交流など、人間としてよりよく生きていく上で有効に機能する文化として、人生80年といわれる生涯の各ステージにおいて個々人の生活の中に取り入れていくことを奨励する方策といえます。

(2)昭和60年代以降は、生涯スポーツの理念が国民の間に徐々に浸透したことで、地域のスポーツクラブ育成事業等の推進と相俟って、生涯スポーツ時代の到来を実感する状況になってきました。

### 2. 生涯スポーツ社会の実現に向けて

(1)平成の年代に入っても、生涯スポーツの振興は、国および地方公共団体さらには、日本体育協会や都道府県体育協会をはじめとする各種のスポーツ組織が連携して、スポーツ振興施策の柱として一層の推進が図られました。その結果、1週間に1回以上運動やスポーツに継続的に取り組む国民が45%を超える状況になりました。

(2)国においては、21世紀におけるスポーツの一層の推進を図る観点から、「スポーツ振興基本計画」を策定しております。その中の柱の一つに、国民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる「生涯スポーツ社会」の実現が掲げられています。

(3)日本体育協会においても国の「スポーツ振興基本計画」を受けて、「21世紀の国民スポーツ振興方策」を策定しています。その方策の中で、今後のスポーツ振興の基本理念を国の政策と連動した「生涯スポーツ社会」の実現を目指すこととしております。

(4)そして、「生涯スポーツ社会」のイメージ像、すなわち、具体的な推進目標として、次の項目を掲げ、これらを達成していくことが結果として「生涯スポーツ社会」の実現を果たすことになるという位置づけにしております。

国民の過半数(50%以上)が週1回以上の継続的なスポーツ活動を実践している状況

国民の地域スポーツクラブへの加入率が30%程度となっている状況

スポーツを実践する以外にスポーツを見て楽しむ、支えて自己実現を図るなど、スポーツへの多様なかわりが主体的に行われている状況

スポーツが新しい地域社会の構築に貢献し、公的存在として社会が認知している状況

(5)日本体育協会においては、現在、「生涯スポーツ社会」のイメージ像を念頭に置いて、その達成に向けた各種の振興事業を展開し、機運の醸成に努めているところです。

P5

#### [コメント]

団塊世代が75歳を迎える2025年が社会問題となることが、人口推計上明確であるなら、日本体育協会専務理事の岡崎先生のこの御提案は日本を危機から救うかも知れない。「いつまでも若々しく生きる」には生涯にわたるスポーツが一番。

- 2009年12月7日 林明夫記 -